

石巻市文化財調査報告書第10集

# 梨木畠貝塚

—梨木畠3号沢砂防ダム事業に伴う発掘調査報告—

2003年

石巻市教育委員会  
宮城県石巻土木事務所

# 梨木畠貝塚

—梨木畠3号沢砂防ダム事業に伴う発掘調査報告—

## 序 文

石巻市内には、縄文時代から奈良・平安時代の間につくられた数多くの貝塚があります。中でも沼津貝塚、南境貝塚、梨木畠貝塚などは縄文時代から人々が生活を営み、何千年という時をかけ、いくつもの時代を超えて形成された貝塚です。

梨木畠貝塚は、これまでにも幾度かの発掘調査がなされ、昭和38年に東北大考古学研究室が行なった調査では、奈良・平安時代の貝層の下から、縄文時代早期（今から約7,500年前）の土器が見つかっています。そしてこの土器の形態的な特徴をもとにして、考古学では「梨木畠式」という土器の型式設定がなされている学史的にも著名な遺跡です。

平成14年度、石巻市教育委員会では梨木畠貝塚の範囲内の2地点で発掘調査を行ないました。一つは県道石巻鮎川線建設工事に伴うもので、調査の結果2体の埋葬人骨や、平安時代の住居跡や製塩遺構などが検出されました。そして本報告書は、もう一つの調査である梨木畠3号沢砂防ダム工事に伴う発掘調査の成果をまとめたものです。

梨木畠貝塚ではこれまでに、石巻市内で最も古い時期の遺物が出土しており、当地域の原始時代を知る上でも重要な遺跡です。この度の調査成果が多くの方々に活用され、地域の歴史解明の一助となれば幸いと思います。

最後に、梨木畠貝塚発掘調査にあたり、特段の御配慮を賜り、御協力いただきました方々と関係機関に、心から厚くお礼申し上げます。

平成15年3月

石巻市教育委員会

教育長 阿部 和夫

## 目 次

I	発掘調査に至る経緯	1
II	遺跡の立地と周辺の環境	1
III	基本層位	5
IV	発見された遺構と遺物	6
V	考察とまとめ	13
	引用・参考文献	16

写真図版

## 例 言

1. 本書は、宮城県石巻上木事務所による、石巻市梨木畑3号沢砂防ダム工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果を収録したものである。
2. 調査は、石巻市教育委員会が主体となり、石巻市教育委員会社会教育課文化係が実施した。
3. 土層等の色調標記については、「新版標準土色帳」9版（小山・竹原：1989.5、日本色研株式会社）を利用した。
4. 本書の第1図は国土交通省国土地理院発行1/50,000「石巻」を複製して使用した。
5. 本書の編集・執筆は石巻市教育委員会社会教育課 古澤ア希子が、遺物実測・トレースは同課木暮亮が、遺構平面図等のトレースは小畠由記子、加藤寿美子が行った。
6. 出土した遺物および調査記録類は、石巻市教育委員会で保管している。

## 調 査 要 項

1. 遺 跡 名 梨木畑貝塚（なしきはたかいづか）
2. 所 在 地 宮城県石巻市渡波字梨木畑
3. 調 査 期 間 （確認調査）平成14年5月13日～7月31日  
（整理作業）平成14年7月22日～7月31日、平成15年1月14日～3月13日
4. 調 査 員 石巻市教育委員会社会教育課 古澤ア希子 芳賀英実 今野勝成
5. 調査補助員 （確認調査）加藤寿美子 離部和夫 穂田吉夫 長谷川信雄  
（整理作業）小畠由記子 葛西ふみ 加藤寿美子 茂木希巳江
6. 調 査 指 導 宮城県教育庁文化財保護課
7. 調 査 協 力 発掘調査並びに報告書の作成にあたっては、次の機関並びに方々から指導・協力をいただいた。（敬称略・順不同）

宮城県教育庁文化財保護課 後藤秀一、佐久間光平、青森県埋蔵文化財センター 木村高、青森県中里町立博物館 斎藤淳、北日本建設株式会社

## I 発掘調査に至る経緯

平成13年4月、梨木畑3号沢通常砂防事業と埋蔵文化財の関わりについて、宮城県石巻土木事務所から協議があり、宮城県文化財保護課との3者協議の結果、当初の計画では梨木畑貝塚の中心部分にかかる可能性が高いため、設計計画が変更されることとなった。平成13年8月、変更された設計計画をもとに再協議を行ない、工事用取付け道路についての確認調査を行うこととなった。

調査を行なった地点は梨木畑3号沢の西側斜面にあたり、全面的に杉が植林されていたため、樹木伐採の終了を待って平成14年5月13日から調査を開始した。

確認調査は、工事用取付け道路が敷設される範囲に沿って、A～Gのトレンチを設定して行なった。このうちGトレンチから竪穴住居跡が2軒検出されたため、そのまま事前調査に移行し、平成14年7月31日に調査を終了した。

## II 遺跡の立地と周辺の環境

### 1. 遺跡の立地

梨木畑貝塚は石巻市の南西部、JR右巻線渡波駅の東南約1.3kmに位置し、万石浦南岸の湾口に近い丘陵上、標高1～16mの緩やかな傾斜地に立地する。

万石浦は、周囲を北上山地から続く山々が取り囲んでおり、本遺跡も北は万石浦に面し、南には大六天山から連なる尾根を背負っている。万石浦に面した入り江や丘陵上には、縄文時代から奈良・平安時代までの数々の遺跡が存在する。

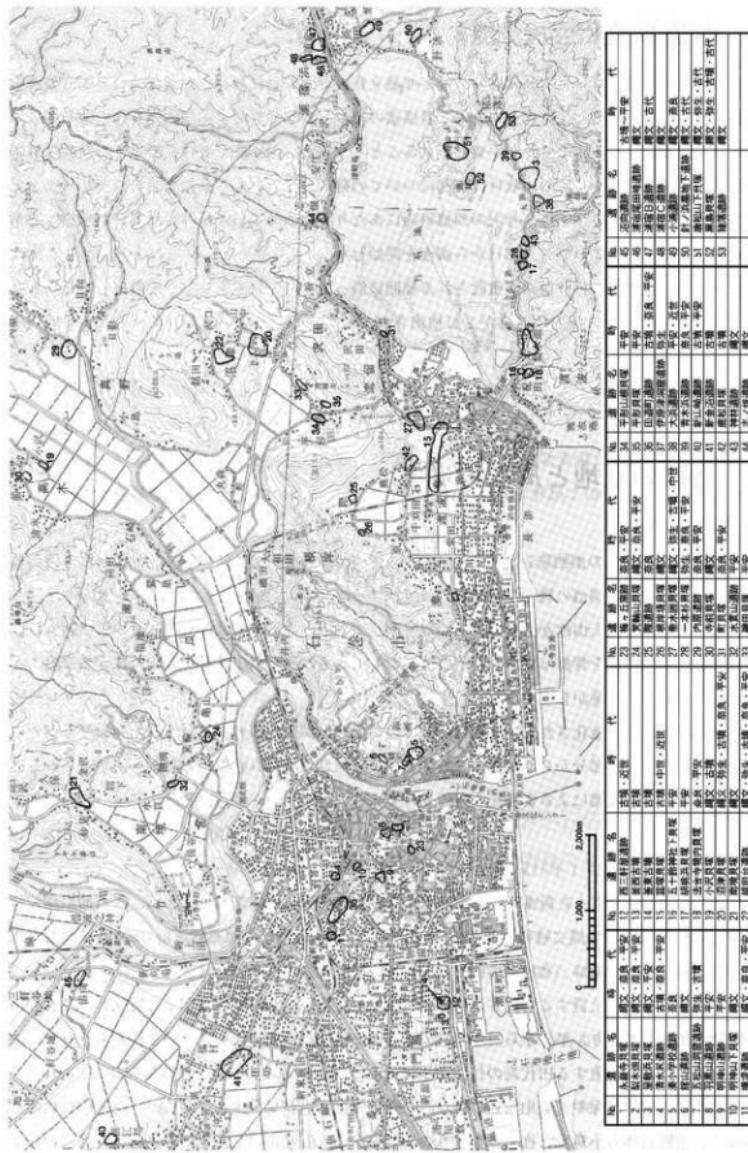
梨木畑貝塚周辺は宅地化されている部分が多く、また今回調査地点のある斜面を西側に登りつめると、本来尾根であった部分から西側は、採石作業により大きく削られ、原地形を留めていない。今回調査地点もこの採石作業による影響を大きく受けている。

### 2. 歴史的環境

石巻市内の遺跡の中でも、最も古い時期に形成されたのがこの梨木畑貝塚である。万石浦沿岸には隣接する女川町にかけて縄文時代の遺跡が集中しており、本遺跡から東へ約2kmにある屋敷浜貝塚や、神林遺跡、志ノ畠遺跡、女川町の猪落遺跡、尾田峰貝塚などがある。

一方、万石浦の北に位置する古稀井湾沿岸の丘陵でも、沼津貝塚、南境貝塚から縄文時代早期や前期の遺物が出土しており、早くから貝塚の形成が行なわれ、長期間に渡り人々の生活が営まれた。また牡鹿半島南西部に位置する田代島の仁斗田貝塚のように、離島に営まれた遺跡もある。

弥生時代は、沼津貝塚や五松山洞窟遺跡などから弥生土器等が見つかっているが、遺跡の数は極めて少なく、遺跡自体も小規模と推定されるものが多い。また石巻市内の弥生時代遺跡は、海に面した



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

第2図 梨木畠貝塚調査地点



丘陵裾部の浜辺や海蝕洞窟などに立地するものが多く、万石浦周辺では本遺跡のほか、南岸の一本杉貝塚や、女川町の唐松山下貝塚、黒島貝塚、北岸の垂水園貝塚がある。

古墳時代になると、仙台平野をはじめ各地では高塚古墳がつくられるが、石巻市周辺では極めて少なく、矢本町の小脇浦古墳が知られているに過ぎない。石巻市では西部の浜堤上に古墳時代後期の円墳と推定される釜西古墳・釜東古墳があるのみである。

古墳時代の遺跡は、市内西側の平野部に立地するものが多く、このうち田道町遺跡や、新金沼遺跡では前期の集落の跡が、新山崎遺跡では方形周溝墓が検出されている。一方、市内東部の万石浦周辺では庵松貝塚、垂水園貝塚、廢遺跡、五松山洞窟遺跡、女川町の黒島貝塚などがある。五松山洞窟遺跡では中期の埋葬人骨と金銅装大刀、銛角付青などのが出土している。

奈良時代から平安時代の遺跡としては、銛帶金具や木簡が出土した田道町遺跡や、鐵治工房や墨書き土器が出土した箕輪山貝塚などがある。万石浦周辺では、古墳時代には少なかった遺跡の数がこの時期に増加するが、その多くは貝層を伴い、製塩土器が出土している。梨木畠貝塚もその一つであり、周辺の五十鈴神社下貝塚、一本杉貝塚、大浜遺跡、青木浜遺跡などからも製塩土器が出土している。

中世以降の遺跡として、石巻市内では館跡、寺院跡、経塚、生産遺跡、板碑群がある。遺跡の中で最も多いのは館跡で、稻井地区の水田を見下ろす丘陵上に集中している。万石浦周辺では、北岸の丘陵上の沢田日影山経塚や、牧山丘陵東部の猪坂山に猪坂山経塚がある。また猪坂山経塚から約200m西側、鹿妻山麓の微高地には専称寺跡があり、鎌倉時代から室町時代にかけての板碑群が見つかっている。

### 3. これまでの調査成果

梨木畠貝塚では、これまでに、昭和38年の東北大学の調査をはじめとして、幾度かの調査がなされてきた。

昭和38年には、東北大学考古学研究室による調査が行なわれ、厚い貝層の下からは奈良・平安時代の土器器、須恵器、土錘、刀子、骨角器などが出土した。さらにこのハマグリの貝層の下からは、縄文時代早期の遺物を含む貝層がみつかった。カキ、イシダタミなど岩礁産の貝類からなる縄文時代早期の貝層からは、底部尖底で器内面に貝殻条痕のある縄文土器が出土し、この土器の形態的な特徴から「梨木畠式」という土器型式がつくられた。

次に昭和51年に石巻市教育委員会が行なった調査では、宅地内の庭から埋葬人骨が検出された。宅地建設により既に約1.5mの包含層が削平されていたが、残存したハマグリ、アサリ、カキを主体とする貝層からは、内黒で底部回転糸切の七輪器、底部手持ちヘラ削りの須恵器壊のほか、須恵器の壺、長頸瓶、蓋、製塩土器などが出土している。埋葬人骨はこの貝層の最下部から検出され、屈曲姿勢をとり、埋葬頭位は北東であった。人骨の年代は、上記遺物から9世紀頃のものと考えられる。また、後の鑑定の結果、人骨は壮年の男性のものであることが判明した。

その後平成7年には、市道建設に伴う発掘調査と、サン・ファンパークアクセス道路建設に伴う発

掘調査が行われた。市道建設部分では縄文時代前期と晩期の土器が調査区西寄りの斜面から出土したほか、奈良・平安時代の土師器、須恵器が見つかっている。一方、サン・ファンパークアクセス道路部分では、遺構・遺物は検出されていない。

### III 基本層位

今回の調査地点は、梨木塚3号沢の西側斜面、標高約9~18mの丘陵部に位置する。調査地点のある斜面の頂上部から西側は、採石作業により本来尾根であった部分から削平されおり、今回調査地点のある斜面もこの影響を受け、特に沢に近い部分が大きく削平されている。

梨木塚貝塚における昭和38年調査地点、昭和51年調査地点、及び平成14年の県道石巻鮎川線の調査地点では貝層が検出されているが、今回の調査においては検出されなかった。

調査地点南西部のAトレンチから北西部のGトレンチに向かい、堆積土が次第に厚くなっている。Bトレンチ南部はAトレンチと同じ堆積であるが、Bトレンチ中央部からEトレンチにかけてと、Fトレンチ北部は地山面まで採石作業に伴う擾乱を受けている。

#### 〔第Ⅰ層〕

第Ⅰ層は表土層であり、杉や竹の根による擾乱を受けている層である。暗褐色の粘土質シルトで、30~40cmの厚さで堆積している。赤褐色及び淡黄色土塊を含む。

#### 〔第Ⅱ層〕

第Ⅱ層は黒褐色粘土質シルト層で、層の厚さは10~30cmである。5cmほどの大きさの石を多く含んでいる。

#### 〔第Ⅲ層〕

第Ⅲ層は黒褐色粘土質シルトの混土疊層で、層の厚さは10~30cmである。20~30cm大までの大きさの石を非常に多く含んでいる。

#### 〔第Ⅳ層〕

第Ⅳ層は暗褐色シルト層である。Gトレンチ中央部から北部にかけて検出され、10~30cmの厚さで堆積している。縄文土器包含層である。竪穴住居跡はこの層から掘り込まれている。

#### 〔第Ⅴ層〕

第Ⅴ層は黄褐色砂質シルト層である。Gトレンチの南部で検出された。

#### 〔第Ⅵ層〕

第Ⅵ層は黄褐色粘土質シルトの地山層である。

## IV 発見された遺構と遺物

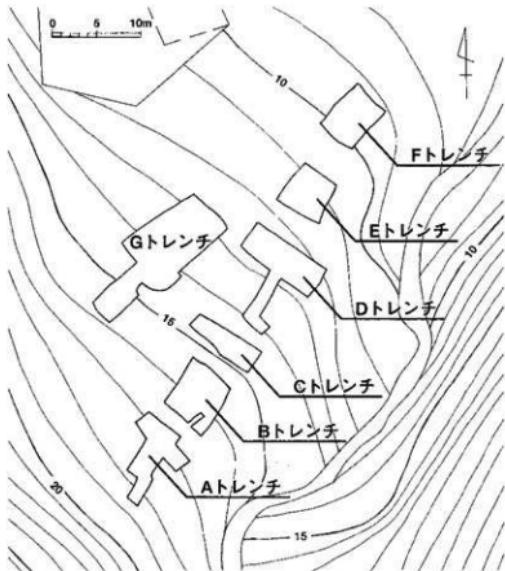
調査は工事用道路が敷設される範囲に沿って、A～Gの7本のトレンチを設定して行なった。このうち、Fトレンチからピット1基、Gトレンチから堅穴住居跡2軒を検出した。

### Aトレンチ

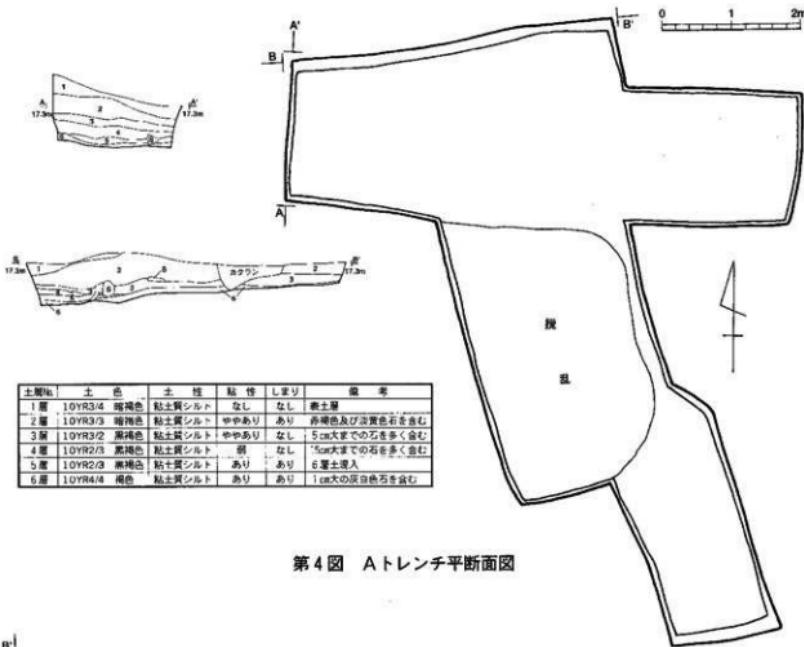
標高16～18mに位置する。南部で地表から約40cmの深さで地山となるが、北西部に向かい土層の堆積は約1mまで厚くなり、旧地形は南東から北西に向かい傾斜している。トレンチ中央部は木の根等によると思われる擾乱が著しい。遺構は検出されなかった。中央部の擾乱から縄文土器片と磨石が、北西部黒褐色土中から縄文土器片がそれぞれ1点出土している。

### Bトレンチ

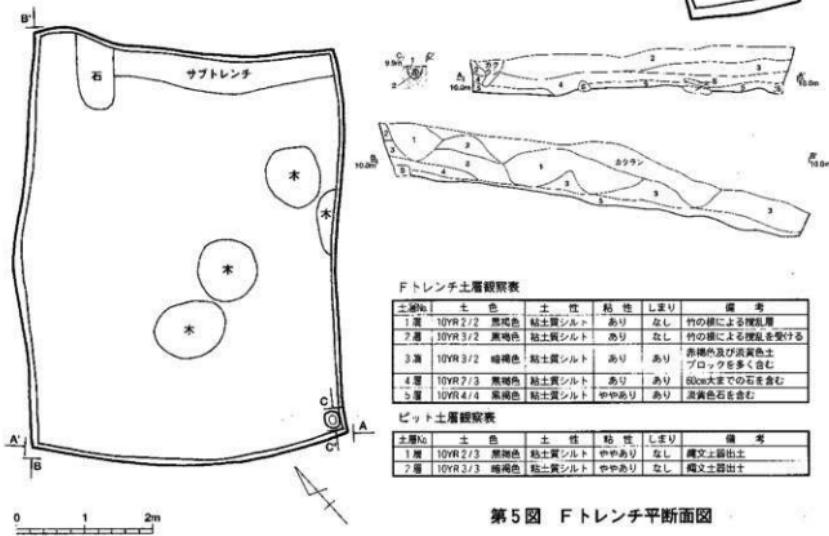
標高15～16mに位置する。トレンチ中央部から北部にかけて搅乱を受けており、1m程の大きさの石が隙間なく全面的に検出された。出土した石の中には、発破作業用と思われる穴を開けたものが含まれていたことから、この搅乱は採石作業によるものと考えられる。地表から約40～50cmの深さで地山となるが、地山土の中まで石が沈み込んでいた。遺構は検出されなかった。土師器1点、縄文土器1点が出土している。



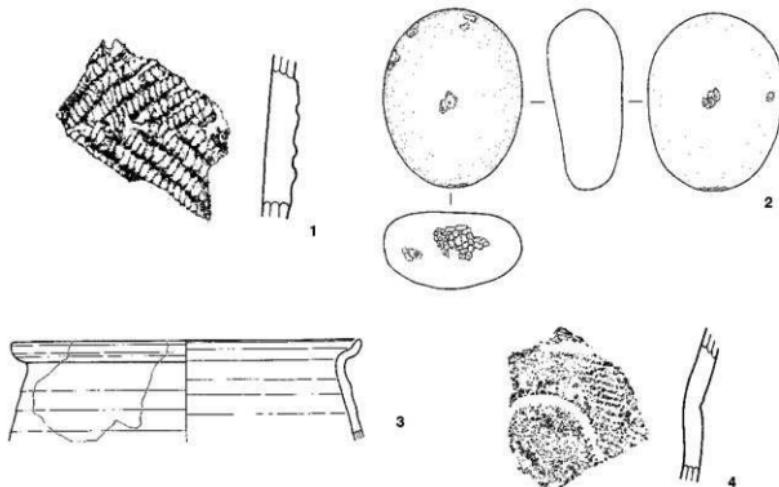
第3図  
調査区位置図



第4図 Aトレンチ平断面図



第5図 Fトレンチ断面図



(1・4は縮尺1/2、2・3は1/3)

No	器種	出土地点・層位	特徴	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存	写真原版
1	縄文土器	Aトレンチ・探査	網部破片、羽状縞文〔单唇斜縞文(L.R.)〕					4-13
2	磨石	Aトレンチ・探査	砂岩、最大長10.8cm 最大幅3cm 最大厚4.5cm (表面) 鋸打痕、縦溝 (側面) 鋸打痕、横溝				変形	4-12
3	土師器 積	Fトレンチ・探査	ロクロナメ	21.6		(6.7)	口縁部のみ	4-14
4	縄文土器	Fトレンチ・表土側	網部破片、次縞文、構文					4-15

第6図 Aトレンチ・Fトレンチ出土遺物

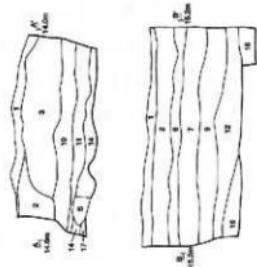
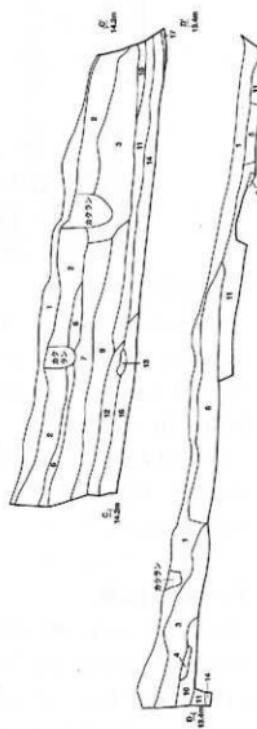
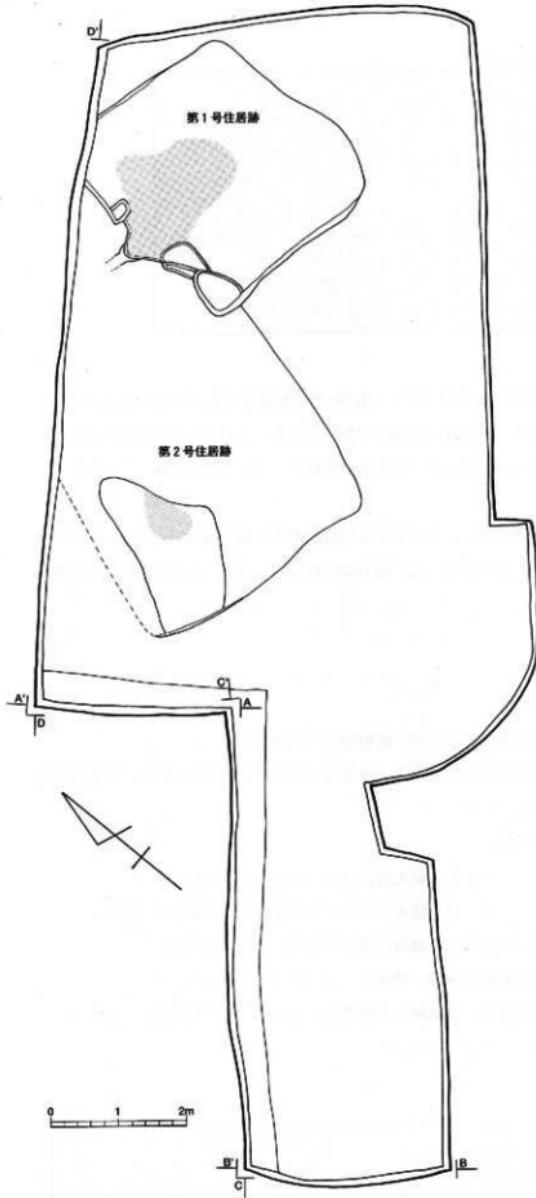
### C・D・Eトレンチ

標高10~15mに位置する。地表から約20~50cmの深さで地山となるが、採石に伴う搅乱を全面的に受けている。最大1mを超える大きさの石が大量に検出され、石は地山まで沈み込んでいる。遺構は検出されなかった。Dトレンチから縄文土器1点が出土している。

### Fトレンチ

標高9~10mに位置する。表上から40~80cmの深さで地山となるが、杉の植林と竹の根による搅乱を著しく受けている。またトレンチ北部は採石に伴うと思われる搅乱を受け、1mを超える大きさの石が地山まで沈みこんでいる。

南東コーナーで径20cm、深さ18cmのピットが検出され、ピットの埋土から縄文土器1点が出土している。出土遺物は他に縄文土器片数点と、杉の植栽による搅乱の中から土師器等が出土している。



第7図 Gトレンチ平面面図

Gトレンチ土層観察表

土層No	土 色	土 性	粘 性	しまり	備考
1層	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	あり	なし	表土層
2層	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	あり	ややあり	赤褐色及び淡褐色土粒を含む
3層	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	あり	良	20~30cm次の石を平均1多く含む
4層	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	ややあり	良	暗色化したアリゾナをくわわかに含む
5層	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	ややあり	強	1~2cmの大粒の赤褐色及び暗褐色土粒を含む
6層	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	あり	あり	赤褐色及び淡褐色土粒をやや含む
7層	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	5cm以上の石を非常に多く含む
8層	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	ややあり	あり	2~3cmの大粒の赤褐色土粒を含む。20cmの大粒の石を含む
9層	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	30cm以上の石を非常に多く含む。繩文土器含む
10層	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	ややあり	弱	2~3cmの大粒の赤褐色土粒を含む。繩文土器含む
11層	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	あり	あり	赤褐色及び淡褐色土粒を多く含む。繩文土器含む
12層	10YR4/2 淡褐色	粘土質シルト	ややあり	なし	2~3cmの大粒の赤褐色土粒を含む
13層	10YR5/5 黄褐色	砂質シルト	弱	良	
14層	10YR4/3 にじる黄褐色	砂質シルト	なし	良	1cmの大粒の赤褐色土粒をやや含む
15層	10YR5/3 にじる黄褐色	砂質シルト	弱	良	2~3cmの大粒の赤褐色土粒をやや含む
16層	10YR4/3 にじる黄褐色	砂質シルト	弱	あり	2~3cmの大粒の赤褐色土粒を含む
17層	10YR6/4 にじる黄褐色	粘土質シルト	弱	強	地山層

## Gトレンチ

標高12~16mに位置する。トレンチ南半は地山まで1~1.5mの土層が堆積しているが、北半は後世の擾乱等により削平されおり、北端部では20cmの深さで地山となる。またトレンチ北部では1mを超える大きさの扁平な石が複数検出され、地山まで沈み込んでいた。これも他のトレンチと同じく採石作業に伴うものと思われる。

トレンチ北部で竪穴住居跡を2軒検出した。2軒ともに暗褐色上層から掘り込んでいたため検出が困難であり、住居壁面等の確認できなかったが、隅丸方形を呈すると考えられる。規模は南北約3.3m、東西の残存長は約3.2mである。

## 第1号竪穴住居跡

〔位置〕 Gトレンチ北西部に位置している。

〔重複〕 第2号住居跡と重複していると考えられるが、新旧関係は不明である。

〔平面形・規模〕 住居コーナー部が検出できなかったが、隅丸方形を呈すると考えられる。規模は南北約3.3m、東西の残存長は約3.2mである。

〔堆積土〕 自然堆積であり、7層からなる。

〔壁〕 壁は床面からやや外側に傾斜して立ち上る。最大残存高は南壁で約20cmである。

〔床面〕 地山面を掘り込んで床面としている。中央付近からカマド部分まで焼面が確認された。

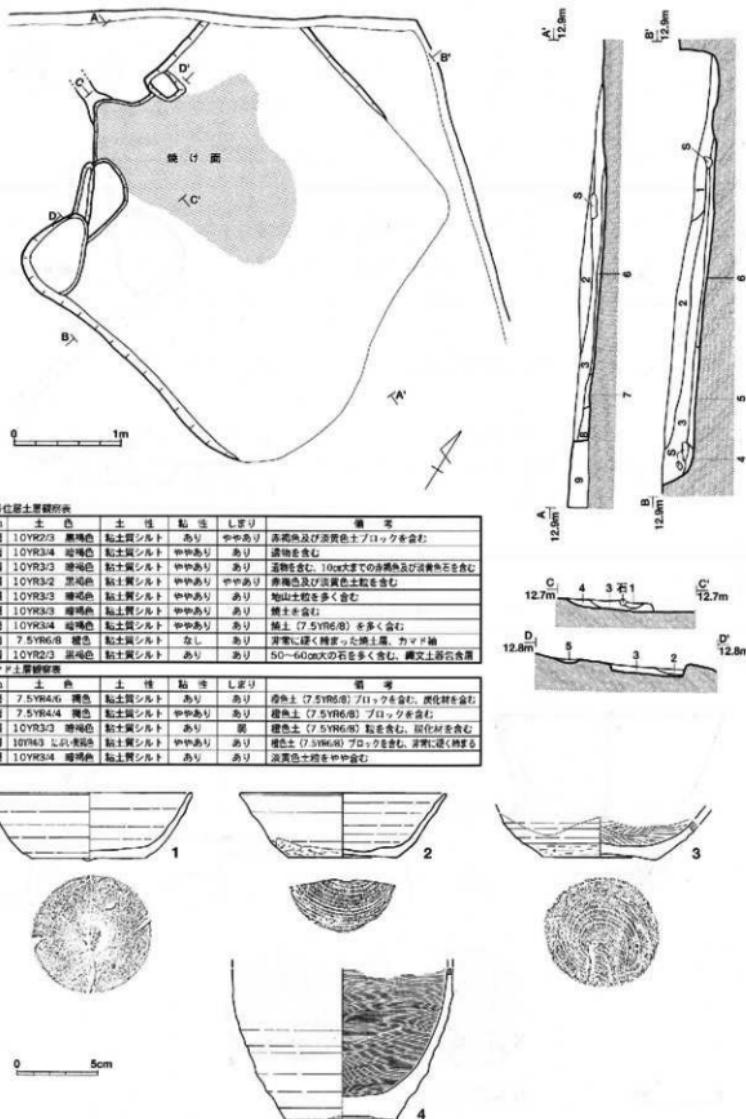
〔カマド〕 西壁のほぼ中央部に設置されており、煙道の一部、燃焼部、袖部を検出した。

〔柱穴・ピット〕 南西コーナー付近から長軸約70cm、短軸約50cmのピットが検出された。

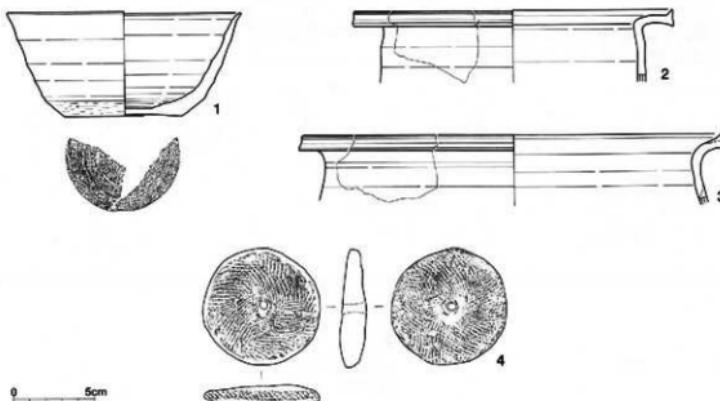
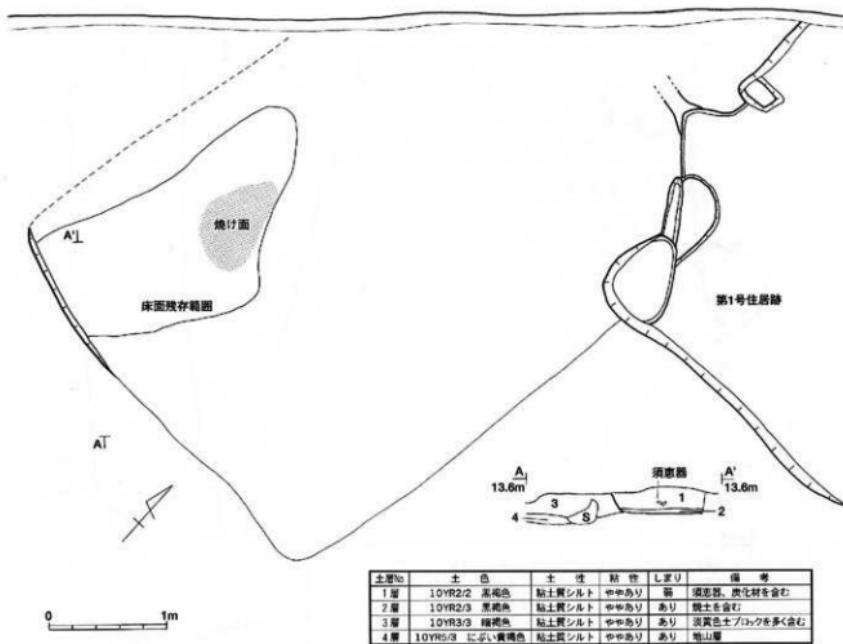
〔出土遺物〕 床面及び堆積土から須恵器杯が、土壤から土師器壺が、堆積土から土師器壺、弥生土器、統繩文土器、石匙が出土している。

第1号住居跡 遺物観察表

No.	名 称	出土地点・層位	特 徴	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残 存	写 真
1	須恵器	坑 第1号住居跡・床面	灰陶軽敷へり切り	12.8	7.1	4.7	4/5	3-1
2	須恵器	坑 第1号住居跡・堆積土	底部軽敷へり切り、体部下端手持ちへラケズり直腹	13.0	5.4	4.0	2/5	3-3
3	土師器	坑 第1号住居跡・堆積土	底部軽敷へり切り、体部下端手持ちへラケズり直腹、内面黒色處理	—	7.0	(3.6)	1/3	3-2
4	土師器	坑 第1号住居跡・土壁	底部軽敷へり切り、内面ヘナデ	—	6.7	(9.4)	底部付近のみ	3-4



第8図 第1号竪穴住居跡



第9図 第2号竪穴住居跡

第2号住居跡 遺物観察表

No	種類	出土地点・層位	特徴	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	参考範囲
1	須恵器 破片	第2号住居跡・床面	底部切り離し不規則、底部下端切欠へラケズリ調整	14.4	7.2	6.4	3/5	3~5
2	土師器 壺	第2号住居跡・床面	ロクロナデ	19.8	—	(4.5)	口縁部のみ	3~8
3	土師器 壺	第2号住居跡・床面	ロクロナデ	26.5	—	(9.4)	口縁部のみ	3~7
4	土製筋車	第2号住居跡	(直径) 7.2cm (底径) 6.9cm (厚さ) 1.5cm (重量) 68g (外側) 単節斜織文 (PL) 斜文 (裏面) 単節斜織文 (RL) 斜文 (孔径) 0.6cm (高) 0.8cm				先形	3~6

## 第2号堅穴住居跡

〔位置〕 Gトレンチ中央部、第1号住居跡の南側に位置している。

〔重複〕 第1号住居跡と重複していると考えられるが、新旧関係は不明である。

〔平面形・規模〕 南北3.4m以上、東西3.7m以上である。平面形は隅丸方形と思われる。

〔堆積土〕 確認されたのは2層のみである。

〔壁〕 確認されたのは南壁のみであるが、床面からやや外側に傾斜して立ち上り、最大残存高は約10cmである。

〔床面〕 南東部分でのみ床面を確認できた。斜面上部となる東側は地山まで掘り込んだ痕跡が確認されたが、地形が下がる西側は地山の上層にある暗褐色粘土質シルト層まで掘り込み、床としている。残存する床の一部で焼面が検出された。

〔出土遺物〕 須恵器壺、土師器壺、土製筋車が出土している。

## V. 考察とまとめ

### 1. 遺物の年代

今回の調査地点からは、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代の遺物が出土している。

#### 〔縄文時代〕

Gトレンチ中央部から北部にかけての暗褐色土から、縄文時代中期、大木9式及び10式と思われる土器が出土している。

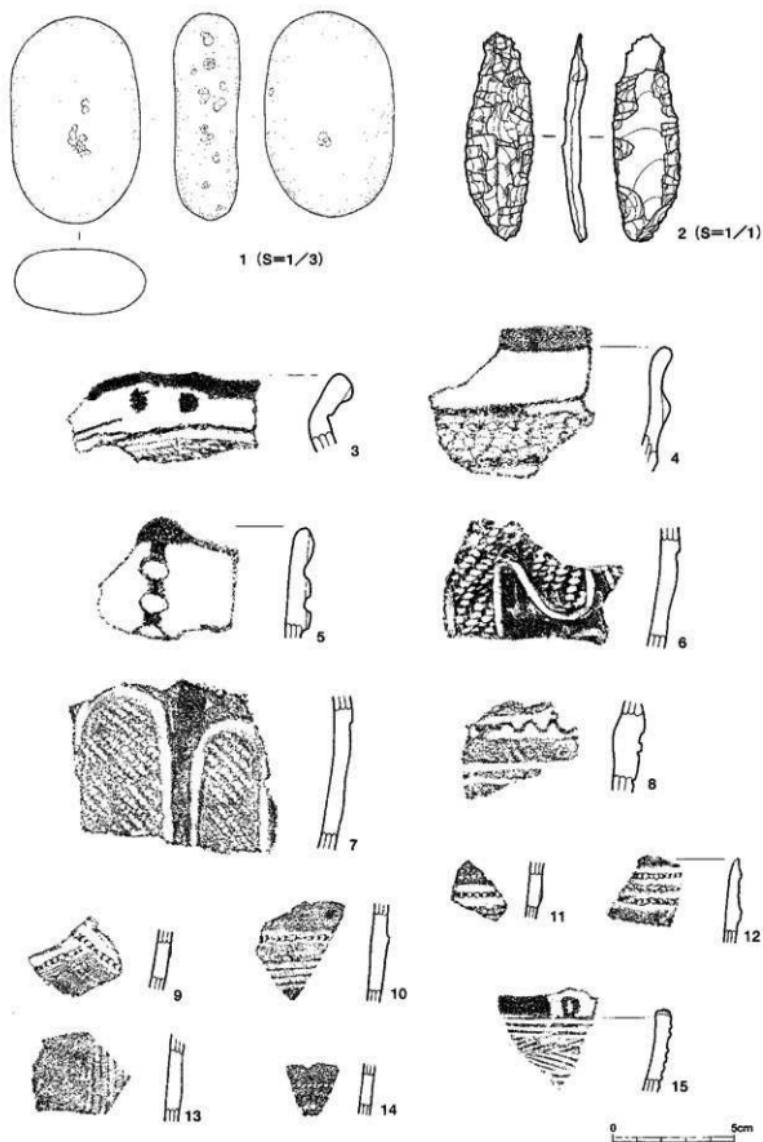
この他、Aトレンチの搅乱からは縄文時代前期初頭の上川名II式もしくは大木1式と思われる土器が、Fトレンチからは大木10式と思われる土器が出土している。

また、表面採集遺物ではあるが、内外面に朱彩が施された土器が出土しているおり、縄文時代後期のものと考えられる。

#### 〔弥生時代〕

第1号住居跡の堆積土から交互刺突文の施された土器が出土しており、天王山式と思われる。

また第2号住居跡からは表裏両面と側面に斜織文の施された土製筋車が出土している。



第10図 G トレンチ出土遺物及び表探遺物

Gトレント遺物観察表

No	器種	出土位置・層位	特徴	写真図版
1	帶石	Gトレント 縫褐色土層	砂岩、円形、最大長：3.3cm、最大幅：8.2cm、最大厚：4.2cm（表面）敲打痕、擦痕 (側面) 敲打痕、擦痕 (裏面) 敲打痕、擦痕	4-11
2	石匙	Gトレント 1号住居跡堆積土	珪質頁岩、一部灰化、最大長：4.3cm、最大幅：1.3cm、最大厚：0.35cm	4-10

No	器種	部位	出土遺構・層位	文様・調度	写真図版
3	縄文土器	口縁部破片	Gトレント北側縫褐色土層	ボタン状鉢付、押圧縞文（L.R）	3-9
4	縄文土器	口縁部破片	Gトレント	縞文（R.L）	3-10
5	縄文土器	口縁部破片	Gトレント表土	茎垂、押圧文	4-2
6	縄文土器	胴部破片	Gトレント表土	沈縞文、縞文（R.L）	4-1
7	縄文土器	胴部破片	Gトレント中央部縫褐色土層	茎溝縞文（L.R）	3-11
8	特殊土器	頭部～胴部破片	Gトレント1号住居跡堆積土	交叉刻印文、縞文	4-3
9	統縄文土器	胴部破片	Gトレント1号住居跡堆積土	複雑縞文、刻み目文、楔形刻点列文、茎縞文（R.L）	4-4
10	統縄文土器	胴部破片	Gトレント表土	複雑縞文、刻み目文、楔形刻点列文	4-5
11	統縄文土器	胴部破片	Gトレント1号住居跡堆積土	茎縞文（R.L）	4-7
12	統縄文土器	口縁部破片	Gトレント1号住居跡堆積土	複雑縞文、刻み目文、楔形刻点列文	4-9
13	統縄文土器	胴部破片	Gトレント1号住居跡堆積土	複雑縞文、刻み目文、楔形刻点列文、茎縞文（R.L）	4-6
14	統縄文土器	胴部破片	Gトレント1号住居跡堆積土	楔形刻点列文	4-8
15	縄文土器	口縁部破片	表面保護	口部突起、横位・斜行沈縫、朱彩	4-15

### [古墳時代]

第1号住居跡の堆積土から、統縄文土器片が6点出土している。接合できるものはなかったが、胎土や焼成が非常に似通っていることから、同一個体である可能性が考えられる。いずれの土器片も大きさが5cm以下であり、文様構成を復元することはできないが、帯縞文、微隆起線文、楔形刻点列文が見られ、さらに微隆起線文上と、口縁端部には刻目文が施されている。文様等の特徴から、古墳時代前期の後北C2・D式の土器であると考えられる。

石巻市内では、これまでに市内北部にある稻井の小沢貝塚付近の水田と、市内西部にある蛇田の新金沼遺跡でも統縄文土器が出土している。小沢貝塚付近の水田からは、後北C2・D式の注口土器の土器片が見つかっており、一方新金沼遺跡からは、竪穴住居跡に伴って後北C2・D式の深鉢型土器が出土している。

今回の調査で出土した統縄文土器は、新金沼遺跡出土の土器と同じ深鉢型土器であると思われるが、新金沼遺跡のものは微隆起線文に白色粘土を用いており、楔形刻点列文の刺突が四角形でやや大きいのに対し、梨木畠貝塚の土器は、微隆起線文には器体と同じ粘土が用いられ、楔形刻点列文の刺突は三角形で細かく施されている点で相違が見られる。

### [奈良・平安時代]

住居跡から土師器壺、土師器甕、須恵器壺が、またFトレントから土師器甕の口縁部破片が出土している。土師器壺は、第1号住居跡出土の一点のみであるが、底部回転糸切で体部下端に手持ちヘラ

削りが施され、内面が黒色処理されている。

須恵器は、第1号住居跡から底部回転ヘラ切りのものと、底部回転糸切りで体部下端に手持ちヘラ削りが施された須恵器坏が出土している。また第2号住居跡からは底部及び体部下端に回転ヘラ削り調整が施された須恵器坏が出土している。これらはともに9世紀前半のものと考えられる。

## 2. 遺構の年代

Gトレーナーから検出された2軒の堅穴住居跡は、出土遺物から9世紀前半のものと推定される。Fトレーナーのピットについては、堆積土から縄文土器が出土しているが、検出されたのは1基のみであり性格等も不明である。

## 3.まとめ

今回の調査地点は、梨木畠貝塚の中でも南端部に位置し、標高13~15mの地点から平安時代の堅穴住居跡2軒と縄文土器包含層を検出した。遺構と包含層を検出したのは今回調査地点の北西端部であり、平成3年度の市道工事に伴う調査において調査区東側の斜面部分から縄文土器がまとまって出土していることと考えあわせると、これら2つの調査地点間の斜面に、遺構・遺物等が包含されている可能性が考えられる。

## 引用・参考文献

- 石巻市 (1953) :「石巻市史」 1  
林謙作 (1968) :「宮城県石巻市梨木畠貝塚」「日本考古学年報」 16  
楠本政助 (1973) :「先史」「矢本町史」 1  
石巻市教育委員会 (1978) :「石巻市文化財だより」 7  
伊藤信雄編 (1981) :「資料集・考古資料」「宮城県史」 34  
佐藤敏幸 (1993) :「閔ノ入遺跡」「河南町文化財調査報告書」 7  
石巻市教育委員会 (1993) :「石巻市文化財だより」 22  
石巻市史編さん委員会(1995) :「石巻の歴史」 7  
石巻市教育委員会 (1998) :「石巻市文化財だより」 27

第2号住居跡（西から）



Gトレーナー（北から）



第1号住居跡（西から）



調査地点全景（南から）





B レンチ (西から)



F レンチビット (西から)



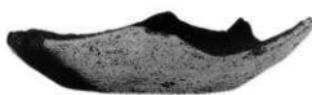
A レンチ南部



F レンチ (南から)



1



2



3



4



5



7



6 a



6 b



8



9

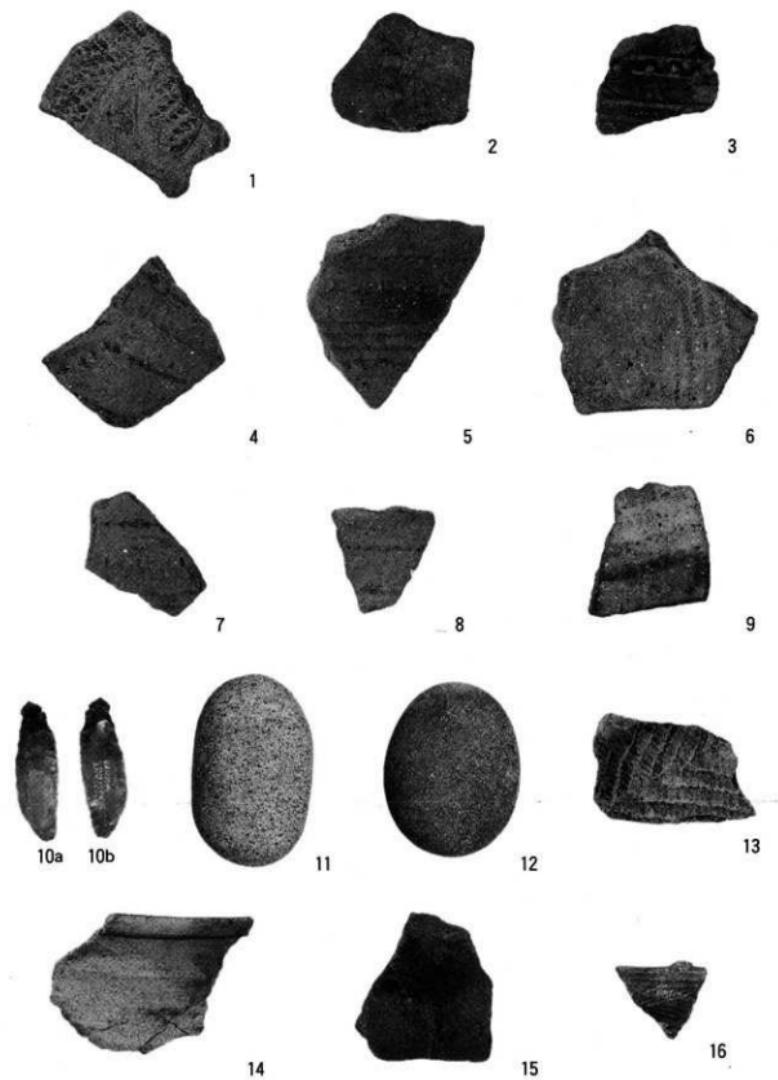


10



11

1～3、5～11はS=1/2、4はS=1/3



1~3, 13~16は $S = 1/2$ , 4~9は実物大, 10は $S = 2/3$ , 11~12は $S = 1/3$

## 報告書抄録

ふりがな	なしきはたかいづか							
書名	梨木畠貝塚							
副書名	梨木畠3号沢砂防ダム工事に伴う発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名	石巻市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第10集							
編著者名	古澤亜希子、木暮亮							
編集機関	石巻市教育委員会							
所在地	〒986-8501 石巻市日和が丘一丁目1番1号							
発行年月日	西暦 2003年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
	市町村	遺跡番号						
なしきはたかいづか 梨木畠貝塚	宮城県石巻市 わたりはあさなしきはた 渡波字梨木畠	4202	65002	38度 24分 37秒	141度 22分 50秒	2002.5.13 ～ 2002.7.31	276.18m <sup>2</sup>	梨木畠3号 沢砂防ダム 工事に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
梨木畠貝塚	集落跡 包蔵地	縄文、弥生、 古墳、古代	竪穴住居跡 2軒	上師器、須恵器、縄文土器、 弥生土器、土製紡錘車 続縄文土器、石器				

石巻市文化財調査報告書第10集

## 梨木畑貝塚

-梨木畑3号沢砂防ダム事業に伴う発掘調査報告-

2003(平成15)年3月25日発行

編集 石巻市教育委員会

発行 石巻市教育委員会

〒986-8501 宮城県石巻市日和が丘一丁目1番1号

☎ 0225-95-1111㈹

印刷 株式会社 松 弘 堂

〒986-0853 宮城県石巻市門脇字木草園2-16

☎ 0225-96-5555㈹

